

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 所長

平成 17 年度病害虫発生予報第 3 号について

平成 17 年度病害虫発生予報第 3 号を発表したので送付します。

平成 17 年度病害虫発生予報第 3 号

向こう 1 か月間における農作物の主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

発生予報の概要

作物名	病害虫名	発生量の 平年比	記載ページ
早期水稲	穂いもち	やや少	2
	紋枯病	やや少	2
	斑点米カメムシ類	並	2
普通期水稲	葉いもち	並	2
	ウンカ・ヨコバイ類	並	2
	コブノメイガ		3
露地野菜全般	アブラムシ類	並	3
	ハスモンヨトウ等チョウ目(鱗翅目)害虫	並	3
トマト	トマト黄化葉巻病(TYLCV)		3
果樹全般	果樹カメムシ類	やや少	3
かんきつ	黒点病	並	4
	かいよう病	やや多	4
	ミカンハダニ	並	4
	チャノキイロアザミウマ	並	4
茶	炭疽病	並	5
	もち病	並	5
	カンザワハダニ	やや多	5
	チャノコカクモンハマキ	並	5
	チャハマキ	並	5
	チャノホソガ	やや多	5
	チャノミドリヒメヨコバイ	並	6
	チャノキイロアザミウマ	多	6
	クワシロカイガラムシ	多	6

作物の生育状況(6月中旬)

早期水稲は平年より生育が早く、出穂が始まっているほ場も見られ、普通期水稲は移植直後～活着期であった。温州ミカンは果実肥大期、茶は2番茶収穫前後であった。

7月の気象予報

向う1か月の天候は、平年に比べて晴れの日が多く、気温は平年並か高い、降水量は平年並か少ない、日照時間は平年並か多いと予想されている。

(1か月予報 鹿児島地方気象台 6月24日発表)

発生予報の根拠および防除対策

早期水稲

1 穂いもち（やや少）

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の葉いもちの発生面積率2.6%（平年33.4%）、発病株率0.4%（平年15.2%）は平年より少ない。
- 2) 7月の気温は平年並か高い、降水量は平年並か多いと予想されている。

[防除上の注意]

- 1) 葉いもちが発生している場合は、穂ばらみ期から穂揃期の防除を確実に行う。
- 2) 雨が続く場合、感染の危険性が高いので雨間でも防除を行う。

2 紋枯病（やや少）

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の巡回調査では発生を認めていない。
- 2) 7月の気温は平年並か高い、降水量は平年並か多いと予想されている。

[防除上の注意]

- 1) 穂ばらみ期の防除が基本となるが、上位葉鞘への進展が続く場合は2回目の散布を行う。

3 斑点米カメムシ類（並）

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の発生面積率13.1%（過去8か年平均17.4%）、20回振り虫数0.3頭（過去8か年平均0.5頭）は平年並である。
- 2) 6月上旬のイタリアンライグラスにおけるすくい取り調査による生息数は、平年よりやや少ない傾向であった。

[防除上の注意]

- 1) 米の上位等級確保のためには穂揃期とその7～10日後の2回防除を厳守する。その後も発生が見られる場合には追加防除を行う。
- 2) 出穂の早い水田には集中的に飛来する恐れがあるので注意する。
- 3) 普及センター情報では、6月中～下旬に一部多発生のは場が報告されているので、発生を確認したら直ちに防除する。

普通期水稲

1 葉いもち（並）

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の巡回調査では発生は確認されなかった。
- 2) 7月の気温は平年並か高い、降水量は平年並か多いと予想されている。

[防除上の注意]

- 1) 本田での初発生に注意し初期防除を徹底する。雨が続く場合、感染の危険性も高いので雨間に防除する。
- 2) 育苗時に葉いもちが発生していた場合、保菌率が高く本田で蔓延するので防除を徹底する。

2 ウンカ・ヨコバイ類（並）

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の発生面積率は、ツマグロヨコバイ、ヒメトビウンカでは平年よりやや多、セジロウンカ発生未確認（やや少）、トビイロウンカでは発生未確認（平年

並)であった。

[防除上の注意]

- 1) 梅雨期に飛来成虫が著しく多く、株当たり虫数が4頭以上になると稲の生育が抑制されるので早めに防除する。
- 2) 育苗箱施薬剤を実施したほ場では、薬効期間や発生状況を考慮して防除する。

3 コブノメイガ (-)

[防除上の注意]

- 1) 防除適期は飛来世代の次世代の発蛾最盛期に粒剤を施用するのが効果的なので、病害虫除・肥料検査センターのホームページ等の発生予察情報に注意する。

野菜・工芸作物全般

1 アブラムシ類 (並)

[予報の根拠]

- 1) 黄色水盤トラップ(佐土原)による誘殺数は平年並に推移している。

[防除上の注意]

- 1) 各種のウイルス病を媒介するので、発生初期の防除に努める。

2 ハスモンヨトウ等チョウ目(鱗翅目)害虫 (並)

[予報の根拠]

- 1) フェロモントラップ(都城、西都、佐土原)による誘殺数は平年並に推移している。

[防除上の注意]

- 1) 早期発見に努め初期防除を徹底する。

トマト

1 トマト黄化葉巻病(TYLCV) (-)

[防除上の注意]

- 1) トマト黄化葉巻病はシルバーリーフコナジラミによって伝染するので、発病株は見つけ次第抜根し、ほ場から持ち出し埋没処分する。
- 2) 栽培終了後は株を抜き取り、10日間程度施設を密閉してシルバーリーフコナジラミを死滅させた後、残さを処分する。
- 3) ほ場内及び周辺の雑草はシルバーリーフコナジラミの寄主植物となるので、除草を徹底するとともに、産地等では一斉除草などにより地域全体の媒介虫(シルバーリーフコナジラミ)の密度低下に取り組む。
- 4) 育苗施設の開口部は、シルバーリーフコナジラミの侵入を防ぐために、最大でも0.8mm目以下(0.4mmが望ましい)の防虫ネットを設置し、育苗期間中は定期的に防除する。

果樹全般

1 果樹カメムシ類 (やや少)

[予報の根拠]

- 1) フェロモントラップによる最近1か月間(5月4半旬~6月3半旬)のチャバネアオカメムシの誘殺数は、過去6か年平均と比較して少ない。
- 2) 予察灯による誘殺数は平年並である。
- 3) 本年2月の越冬成虫調査では、越冬個体が確認されなかった。

表 フェロモントラップによるチャバネアオカメムシ及び
ツヤアオカメムシの誘殺数（5月4半旬～6月3半旬）

	延岡市		都農町	
	チャバネ	ツヤア	チャバネ	ツヤア
平成17年	42	0	70	0
平均(平11～16)	121	19	162	10
平成11年	125	4	153	13
12年	86	10	524	46
13年	4	0	64	0
14年	284	26	75	0
15年	112	17	26	0
16年	115	58	132	3

[防除上の注意]

- 1) 果樹カメムシ類は園外から飛来し、地域や時期によって発生量が大きく変動するので、園内外を見回り、早期発見、早期防除に努める。

かんきつ

1 黒点病（並）

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の発生面積率10.0%（平成28.1%）、発病葉率0.7%（平成5.7%）は平成並である。

[防除上の注意]

- 1) 防除適期は幼果期、梅雨期、8～9月上旬であるが、降水量が多いほど発生が多くなるので、前回の防除から積算降水量300mmを散布間隔の目安として薬剤散布を行う。

2 かいよう病（やや多）

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の発生面積率30.0%（平成12.9%）、発病葉率2.6%（平成1.2%）は平成よりやや多である。

- 2) ミカンハモグリガの発生は平成よりやや多い。

[防除上の注意]

- 1) 梅雨期に予防散布する。
2) ミカンハモグリガの防除に務める。

3 ミカンハダニ（並）

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の発生面積率20.0%（平成27.6%）、寄生葉率2.3%（平成3.6%）は平成並である。

[防除上の注意]

- 1) 生息密度が高くなると防除が困難になるので、寄生葉率30%（1葉当たり虫数0.5～1頭）を目安に防除を行う。

4 チャノキイロアザミウマ（並）

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の巡回調査では発生面積率5.0%（平成3.3%）は平成並、寄生果率

0.2% (平年 0.2%) は平年よりやや多である。

[防除上の注意]

- 1) 5月中旬から9月上旬の間、数回防除する。

茶

1 炭疽病 (並)

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の発生面積率 29.4% (平年 37.5%)、 m^2 当たり病葉数 0.8 葉 (平年 1.7 葉) は平年並である。

[防除上の注意]

- 1) 3番茶を摘採する茶園では3番茶芽の萌芽期～1葉期に防除し、3番茶を摘採しない茶園ではさらに秋芽の生育期にも防除する。

2 もち病 (並)

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の巡回調査では発生未確認である。

[防除上の注意]

- 1) 潜伏期間が約10日間と短いので、3番茶を摘採する常発地では3番茶の萌芽期～展葉期に防除する。

3 カンザワハダニ (やや多)

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の発生面積率 82.4% (平年 46.8%) は平年より多、寄生葉率 18.8% (平年 7.1%) は平年よりやや多である。

[防除上の注意]

- 1) 同一薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のロ・テ・ション散布を実施する。

4 チャノコカクモンハマキ (並)

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の巡回調査では発生未確認である。

[防除上の注意]

- 1) フェロモントラップ調査による発蛾最盛期は、都城では6月2半旬、田野町及び三股町では6月3～4半旬で、次回の発蛾最盛期は7月3～4半旬頃と考えられる。
- 2) 顆粒病ウイルスによる防除適期は、発蛾最盛期の10日後であるが、そのころは紫外線が強く、顆粒病ウイルスの活性が低下しやすいので曇天日や夕方に散布する。

5 チャハマキ (並)

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の発生面積率 5.9% (平年 7.8%)、 m^2 当り巻葉数 0.1 葉 (平年 0.2 葉) は平年並である。

[防除上の注意]

- 1) チャノコカクモンハマキの発蛾最盛期と10日以上差がなければ、同時防除する。

6 チャノホソガ (やや多)

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の発生面積率 29.4% (平年 22.6%)、 m^2 当り巻葉数 1.1 葉 (平年 0.9 葉) は平年よりやや多である。

[防除上の注意]

- 1) 平年の発蛾最盛期は6月下旬～7月上旬であるが、三角巻葉前に防除することが必要で、発蛾最盛期の約10日後(葉裏の表皮下でトンネル状に潜孔している時期)が防除適期である。
- 2) 脱皮阻害剤は遅効性なので卵期に散布する。

7 チャノミドリヒメヨコバイ (並)

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の発生面積率29.4%(平成28.4%)、寄生葉率1.2%(平成1.7%)は平成並である。

[防除上の注意]

- 1) 萌芽直後から1、2葉期を重点に防除する。

8 チャノキイロアザミウマ (多)

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬(払い落とし)の発生面積率88.2%(平成61.0%)、払落虫数28.4頭(平成10.2頭)は平成より多である。

[防除上の注意]

- 1) 3番茶を摘採する園では、新芽生育初期に加害されると減収程度が大きいいため、萌芽期の防除が重要である。
- 3) 深刈りなどの更新処理を行った園では茶芽の生育期間が長く、被害を受けやすいので残効の長い薬剤で防除する。

9 クワシロカイガラムシ (多)

平成17年度病害虫防除注意報(第1号)(平成17年4月日発令)参照。

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の発生面積率70.6%(平成18.0%)は平成より多、寄生株率30.6%(平成7.1%)は平成よりやや多である。

[防除上の注意]

- 1) 最近、増加傾向にあるので発生を確認したら早めに防除する。
- 2) 防除適期は幼虫ふ化開始から1週間後、または幼虫ふ化最盛期なので、ふ化状況をよく観察して防除する。
- 3) 薬剤散布は、成木園で10a当たり1,000リットル程度を目安に、噴口を茶株の中に差し込むなどして枝幹に十分かかるようにていねいに散布する。

その他

- 1 農薬適用の有無などについては次のホームページで確認する。

日本植物防疫協会ホームページ <http://jppn.ne.jp>

農林水産省ホームページ <http://www.maff.go.jp/nouyaku/>

- 2 農薬の使用に当たっては、農薬使用基準の遵守並びに危被害の発生防止に努める。特に水質汚濁性農薬ベンゾエピン剤(商品名、マリックス乳剤、粒剤等)は使用しないこと。

3 発生量(程度)の区分

多い	(高い)	やや多いの外側10%の度数の入る幅
やや多い	(やや高い)	平成並の外側20%の度数の入る幅
平成並		平成値を中心として40%の度数の入る幅
やや少ない	(やや低い)	平成並の外側20%の度数の入る幅
少ない	(低い)	やや少ないの外側10%の度数の入る幅

(平成値は過去10年間の平均)

4 予察情報の種類

病害虫防除所から発表する情報は次の5つです。

- 1) 予報・・・向こう1か月の発生状況を予測し、毎月25日前後に発表する。
- 2) 注意報・・・主要な病害虫の多発生が予想され、かつ早めに防除が必要な場合に発表する。
- 3) 警報・・・主要な病害虫の大発生が予想され、かつ緊急に防除が必要な場合に

発表する。

4) 特殊報・・・県内で初めて発生を認めた病害虫がある時や、病害虫の発生様相が特異な時に発表する。

5) 防除情報・・・注意をうながす必要がある病害虫の発生状況や、各種の防除技術指導情報について随時発表する。(従来 of 防除速報にあたる)

お知らせ (<http://www.jppn.ne.jp/miyazaki/>)

病害虫防除・肥料検査センターでは、ホームページで情報を提供しています。予察情報の根拠となる地域別調査データ、防除対策等を登録しています。ぜひご利用ください。

【文書取扱】

病害虫防除・肥料検査センター 櫛間

TEL:0985-73-6670 FAX:0985-73-7499

E-mail: kushima-yoshiyuki

@pref.miyazaki.lg.jp